

# 新居浜市で拾得されたハクビシンの死体解剖事例について

山本貴仁

愛媛県総合科学博物館 学芸課

〒792 愛媛県新居浜市大生院2133番地の2

## はじめに

ハクビシン *Paguma larvata* は、食肉目ジャコウネコ科に属し、インド、ネパールから中国南部、海南島、スマトラ、ボルネオ、台湾と広い範囲に分布している。日本における分布は、北海道、本州、四国、九州、から生息の報告がなされているが、分布域が連続せず飛び地状になっている。このことなどから、移入種とみられている（阿部ほか1994）。愛媛県における分布については、島嶼部を除くほぼ全域に分布しているとされ、1960年頃から急速に分布を広げたといわれている（森川・神崎、1976；愛媛県、1978）。

今回、新居浜市大生院の路上にてハクビシンの死体を入手し、解剖を行った結果について報告する。

## 拾得状況

日時：1995年10月1日

場所：愛媛県新居浜市大生院

松山自動車道に沿う側道で発見された。交通量は少なく、周囲は雑木林やスギの植林地がある。標高約120m。

## 調査結果

表1 外部計測値

性別	♂
体重(g)	3480
全長(以下mm)	940
頭胴体	495
尾長	445
後肢長(爪有)	90
〃 (爪無)	85
耳長	40
歯の摩耗状態*	3
* 歯の摩耗 1：ほとんど摩耗せず 2：やや摩耗 3：激しく摩耗	

表2 内部計測値

骨折部位	右側肋骨
欠損部位	腸
脱毛部位	—
臓器計測(g)	
腎臓 右	8.6
左	8.5
栄養状態	
皮下脂肪厚(g)	—
腰回り背部	—
〃 腹部	—
生殖器	
精巢	
右	11.9
左	12.0
胃内容物(g)	135.7

## 年齢

歯の摩耗状態から成獣と推測される。

## 死因

路上で発見され、カラスによるものと思われる穴が腹部にあった。ここから腸が引き出されたものと見られる。解剖の結果、腹腔内、胸腔内の出血が激しく、肝臓にも損傷がみられた。また、肋骨が骨折しており交通事故により死亡したものと思われる。

## 胃内容物

摘出した胃内容物は湿重量を測定した後、70%アルコールで固定し内容物の分析を行った。

表3. 胃内容物分析結果

食物種	検出部位	量
カキノキ	種子・果実皮・果実繊維	+++
昆虫類	脚・翅	+

胃内容物のとんどはカキの果実であり、種子18個が検出された。果実の繊維、皮もみられ胃内容物自体がカキ果実の臭いがするほどであった。

ハクビシンは雑食性とされるが、松本・浜口（1990）によるとミカン、カキ、ビワ、キューイフルーツなどの液果を好む傾向があるとされ、この個体もその傾向をよく現しているといえる。

## 愛媛県下におけるハクビシンの生息状況について

愛媛県での最初の捕獲記録は、1955年に面河村で捕獲された個体があり、（面河山岳博物館1993）愛媛県立博物館に剥製標本が保管されている。1960年代に急速に分布を広げたとされ、ほぼ県下全域に分布するが、島嶼部については、1996年現在も目撃等の情報はない。垂直的な分布もかなりの幅を持っていると思われ、石鎚山成就社（標高1400m付近）での観察例もある。各地での目撃例などから個体数も多いものと推測され、愛媛県自然保護課の集計によると、平成6年度狩猟期間中に62頭が捕獲されている。

## 引用文献

森川国康・神崎雅広（1976）愛媛県における大中型哺乳類の生息状況について，松山東雲短期大学研究論集，第7巻第2号。

面河山岳博物館（1993）面河・石鎚の自然。

松本丈人・浜口哲一（1990）藤沢市で発見されたハクビシンのねぐらについて，神奈川自然誌資料，（11）：71-74。

愛媛県（1978）第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書。

阿部 永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明（1994）「日本の哺乳類」。東海大学出版会，東京。195p。